



少年の主張弟子屈大会

小学生の部		
最優秀賞 「『命』の大切さ」	弟子屈小6年	芝田 遥夏
優秀賞 「一生懸命ということ」	美留和小6年	阿部 実央子
優良賞 「私の将来の夢」	奥春別小6年	深井 杏香
奨励賞 「心を育てるゴミ拾い」	和琴小5年	東出 あきほ
奨励賞 「すてきな友達」	川湯小6年	海老名 沙霧
奨励賞 「将来の夢に向けて」	弟子屈小6年	森島 望
奨励賞 「原点は酪農」	昭栄小6年	高橋 吏玖

出場者の皆さんと審査結果(敬称略)

中学生の部		
最優秀賞 「望み+努力=未来」	川湯中2年	濱岡 日菜
優秀賞 「感謝の気持ち」	弟子屈中3年	田中 智也
優良賞 「『誰か』とともに」	弟子屈中3年	山本 竹人
奨励賞 「野球に懸ける思い」	弟子屈中1年	有岡 大
奨励賞 「バドミントンで学んだこと」	川湯中3年	後藤 優哉
奨励賞 「一瞬の風になれ」	弟子屈中2年	西田 千種
奨励賞 「使われなかった母の日のプレゼント」	弟子屈中1年	山家 麻由美
奨励賞 「川湯の自然」	川湯中3年	村上 龍輝
奨励賞 「土地の有効活用とポイ捨て問題」	弟子屈中2年	橋本 要
奨励賞 「川湯に来てから」	川湯中3年	石川 あやめ

「少年の主張」弟子屈大会

平成24年度第32回「少年の主張」弟子屈大会が5月27日に弟子屈町公民館で開催され

町内各小中学校の児童生徒の代表が、目で見えて感じたことや体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの方々に語りかけました。

最優秀賞には小学生の部で芝田 遥夏 さん(弟子屈小学校6年)、中学生の部で濱岡 日菜 さん(川湯中学校2年)が、それぞれ選ばれました。

中学生の部最優秀賞の濱岡さんは7月26日に釧路市生涯学習センターで開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。

「僕の夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学校や高校で全国大会に出て活躍をしなければなりません。活躍するには練習が必要で、最近CMで流れているイチロー選手の手言葉。彼は大リーグで十年連続二百本安打という素晴らしい記録を作りました。小学校の卒業の時、すでに未来を想像し、想像した未来の自分を超える選手になったイチロー選手。イチロー選手がここまで素晴らしい選手になれたのは、彼自身が「絶対実現する」と強く望んだからだ。私は思います。彼は高校時代、寮生活を送っていました。練習が終了した後の自由時間に、他のチームメイトはもちろん自由に過ごしているのに、彼は自主練習をしていました。きつい練習が終わった後、のんびりしたい気持ちはだれにもあると思います。が、イチロー選手はその欲望に負けなかった。私はそのことをすごいと思います。尊敬もします。私は水泳をしています。習い始めたば

小学生の部 最優秀賞



「命」の大切さ
弟子屈小学校6年
芝田 遥夏さん

私の家では、牛を飼育している。その中のいつも一頭だけ、体の弱い牛が今新しい「命」をかかえながら生きています。私は、学校から帰ってきてときどき、牛舎へと行く。仔牛にミルクをやるためだ。私が、仔牛にミルクをやるうとしたとき、弱い牛から仔牛の足が出てきてしまっていた。このままの中途半端な状態だと、仔牛が息をできなくなり、窒息死してしまう。私は母を呼んだ。まず獣医を呼んで引っぱってもらうことにした。一時間後、無事に仔牛は生まれた。しかし、母牛がたてず二日後死んでしまった。私はこのとき初めて「命」の大切さに気づいた。小学二年生のときだった。私はその母牛のことが今でも忘れられない。それからしばらくして、二つの「命」のことについて体験した。

小学四年生のころ、ふだんのように「いただきます。」
といてご飯を食べていると私の父が牛舎から帰ってきて

中学生の部 最優秀賞



プラス イコール
望み+努力=未来
川湯中学校2年
濱岡 日菜さん

「はるかには、いただきます、ごちそうさまでした、という意味を知っているか。」
と聞いてきた。私は、なんとなくわかっていたので、「うん。知っているよ。」と答えた。

「どういう意味だ。」
と父は私に問いかけてきた。私は「え〜っと、動物や植物の命をいただくってことですよ。」
というふうに答えた。私は、自分でいっておきながら気がついた。

「一食でどれぐらいの命をいただいているんだらう。」
そう思っと思わずつぶやいた。それを聞いた父は、

「そうだ。人のために、動物や植物にたくさんの命をもらっている。それをいつも忘れずに「ご飯を食べなさい。」
私はそれを聞いて

「はい」
と答えた。父は、私にとても大切なことを、教えてくれていた。そう思った。それから私は、「いただきます。」とちそうさまでした。「ご飯を食べる前と食べた後、必ず言い、心をこめて言うようにしている。」
そして小学五年の時、母からまた、「命」に関わる話を聞いた。それは、弟がなにげにだした言葉から始まる。

「どうして戦争はおこるの。」
弟は母に聞いた。母は、どうして戦争がおこるのかを説明した。気が付くと私も母の話を聞いていた。しばらく話をした



突然その子に勝てたことがありました。同じく苦しい練習をしていて、先を行く仲間を追い越せたこと、それは私にとっでとても嬉しいことでした。当時はそんなに感じませんでしたが、自分から進んで、練習をしたこと、これが勝つにつながったのだと思います。また、水泳の大会で、涙を流す場面を見かけることもありません。大会で出る涙は、悔し

「でも、人には考えがあるからね。戦争をした人達のことをいやがる人もいるんだよ。」
母が言った。

「えっ国のために戦ってくれたのに、その人達をいやがるの。」
私はおどろいた。母は、

「そう思う人もいるんだけど、お母さんはそうは思わないな。」
「うん。はるかもそう思う。」
とっさに言葉を返した。

「だから、大人になったら、戦争で亡くなった人達のおはかに行ってきた。きつと天国にいる戦争で戦った人も戦ってよかったって思うよ。」
「うん。分かった。絶対に行く。」
そう言った。

それから私は、今の時代と昔の時代を比べると人はなんのために生きているのか、わからなくなりました。昔の人は国のために生きています。しかし、今の人はそれが無いと思う。だから私は、これまでの経験を通して、人のため、生き物のために、だれかの役に立つように、この一っだけしかない「命」を支えたり、助けたりしたい。そして自分自身も、この世に一つしかない「命」を大切にしていきたい。

私が「命」のことについて考えたわけを、伝えることができたのだろうか。こうしている間にもたくさんの「命」が失われ、たくさんの「命」をいただいているのかもしれない。

涙かうれし涙のどちらかだけです。そしてそれは見ればすぐにわかります。喜びの涙は大勢の人に囲まれて流れているもの、悔し涙は一人で流しています。涙が出るというのはある意味うらやましいです。うれし涙を流すくらい喜べる人は、努力が勝利につながることを実感できたと思います。その人はこれからもっと努力するでしょう。また悔しいと思えば、その気持ちを覆そうという気持ちにつながることもできます。それは努力にむ姿も変わります。負けて悔しいとも思えない人、自分はこの程度だと勝手に限界を決める人は、そこから未来を変えることや、それ以上の未来を望むことはできないでしょう。

今、この場にいる自分、それは過去の努力が創った自分だと思えます。過去の努力の分だけ、人は大きくなれると思っています。またこれからの自分を創るのは今の自分です。今、自分が何を望み、選択し、努力するかだと思えます。努力を積み重ねる人は望み通りの自分になることができるでしょう。望んだだけで何も努力しない人の未来は夢物語で終わってしまうのでしょうか。私はどう思うでしょう。

私は、これからさらに良い自分を創り上げていきます。イチロー選手のように思い描いた自分になれるよう未来の自分を想像します。自分がどう過ごしていくか、によって私の未来は開かれるからです。